

支隊前
四号搜入

昭和十九年六月二十四日應召渡支部隊移駐タメ八月二十日沖繩ニ上陸美里村ニ於テ陣地構築作業ニ從事シアリシカ玄米食ノタメ胃腸ヲ害シ九月二日ヨリ一日數行ノ下痢ヲ來シ同月十二日受診爾來隊中ナリシ處症狀輕快セズ漸次榮養衰ヘ顔貌憔悴程度ノ浮腫ヲ生シ下腹部ニ圧痛アリ粘血便ヲ見ルニ至リタルニヨリ隊治不適ト認メ卅月廿九日入院セシム

右者胃腸強健ナラサル莫アリシモ其他特記スヘキ著患ナク應召入隊シタルモニシテ應召時實施セル細密身体検査ニ於テモ何等異狀ヲ認メズ渡支ニシルモニシテ血族的ニモ遺傳的疾患ト認ムヘキモノナシ本病發生ノ原因ヲ考察スルニ六月二十五日應召早急ノ間出勤準備ヲ完了シ六月二十九日三重縣津市出發朝鮮滿洲ヲ經由シテ七月八日河南省新鄉到着當時大隊ハ南西諸島轉進ノタメ河南省中部地區ヨリ北上中ニシテ之ト連絡成ラサリシタメ同地附近ニ待機シ連日新鄉駐ニ於テ師團隊屬貨物ノ列車搭載作業ヲ命セラレシニ從事七月二十一日ニ至リ部隊ニ合スルヤ第三中隊ニ編入引續キ轉進準備ノタメ隊屬貨物ノ梱包集積等ノ繁忙ナル諸勤務ニ服ス八月六日ヨリ八月

十九日ニ亘ル南西諸島ヘノ輸送ニ際シテハ新鄉ヨリ上海ヲ經由シテ沖繩縣那霸港ニ至ル此間ノ對潛對空警戒ハ敵潜水艦跳梁セル者ニ於テ云最ヲ極メ之ニ服スル者ノ疲勞一方ナラヌ加フルニ船室狹隘ヲ極メ一坪約ハ名ヲ牧容スルノ已ムヲ得ザル狀況ニ在リ爲ニ僅少ノ休息時間ニ於テモ暑熱ト相俟ツテ休養ヲ執ルコトヲ得ス若シテ疲勞ノ恢復ヲ困難ナラシメタリ八月二十日上陸以來沖繩本島ニ於ケル防衛並作戰準備ハ最近ノ敵狀ニ鑑ミ陣地構築作業ノ完成ハ急ヲ要スルモノアリテ之カタメ屢々月明或ハ燈火ヲ利用シテ夜間作業ヲ強行シ且ツ對潛對空警戒等ノ諸勤務繁激ヲ極メタリ此間給養休養ハ屢次ノ移動輸送ニ伴ヒ特ニ現地物資ノ取得困難ヲ極メ列車輸送間ニ於ケル兵站給養船舶輸送間ニ於ケル船内給養等充分ナラヌ且ツ沖繩上陸以來ハ玄米食ヲ常用シ且ツ生鮮食料品ノ缺乏等諸種ノ惡條件ノ累積ニ依リ長期間ニ亘リ粗悪ナル給養ニ甘ニスルノ止ムヲ得ザル状態ニシテ休養亦屢次ノ移動長途ノ輸送ニ熱帯特有ノ濕度高キ氣温下居住設備不備ナル沖

繩木島ニ於ケル居住等之亦最悪ノ條件下ニ在リ漸次繁敷ナル兵業
トノ調和ヲ缺クニ至リ之等ハ應召直後ノ環境ノ急激ナル變化ト相俟ツ
テ遂ニ發病スルニ至リタルモノニシテ全ク公務ニ起因スルモノト認ム

右證明ス

昭和十九年十月廿九日

獨立歩兵第二十一大隊長 陸軍中佐 西林 鴻介
獨立歩兵第二十一大隊附陸軍軍醫 大尉 大林 力



證明書

本籍地
現住所



第六十二師團獨立歩兵第二十一大隊第三中隊
昭和十年徵集 陸軍二等兵 平松 仲男

一病

決定年月 曰 昭和十九年十一月七日

公務起因ノ理由 本症ハ昭和十九年六月二十四日應召渡支部隊

移駐ノ為八月二十日江尾縣那覇港上陸別紙事實證明

書記載ノ如ク悪條件ノ下ニ長途列車並船舶輸送ヲ受テ

上陸セリ以後疲勞ノ恢復ノ服ナク繁忙ナル諸勤務ニ服シ給

養亦意ノ如クナラス昭和十九年九月二日頃ヨリ下痢ヲ來シ

曰數行血液ヲ排シ全身倦怠漸次衰弱ニ至リ

腫ヲ來シ發病セシモノト認ム



右證明書

昭和十九年十一月七日

第六十師團野戰病院刑罰患者療養所長陸軍軍醫中尉蓮江哲夫

證明書

本籍地
現住所



第六十師團獨立歩兵第三大隊第三中隊

昭和十年徵集 陸軍二等兵 平松伸男

一改正セル病名 腸結核

一改正年月日 昭和十九年十二月十四日

一公務起因理由 本症ハ昭和十九年六月二十四日應召渡支那隊

移駐、為八月二十日沖繩縣那霸港上陸別紙事實證明書

記載、如ク悪條件ノ下ニ長途ノ列車並船舶輸送ヲ度テ

上陸セリ以後疲勞ノ恢復、暇ナク繁忙ナル諸勤務ニ服

シ給養亦粗悪ニシテ意、如クテ又昭和十九年九月二日頃

リ下痢ヲ來シ一日數行血液ヲ排シ全身倦怠漸次菜食

衰ハ下肢ニ浮腫ヲ來シ發病セシモト認ム 昭和十九年十

重字削除

月二十九日第六十二師團野戰病院小那覇患者療養所ニ
 入院以來専心加療中、處十一月三十日赤血球沈降速度一
 時間四〇糎ヲ算シ十二月十二日右肺野ニ僅カニ湿性囉
 音ヲ聴取シ微熱ヲ發スルニ至リ 下痢症狀ハ結核性疾患
 ノ一症狀ナルト明トナリタルヲ以テ十二月十四日病名改正ス
 右證明ス

昭和十九年十二月十四日

第六十二師團野戰病院小那覇患者療養所長陸軍軍醫中尉 蓮江哲大

病 歴 書

本籍地
現住所



第六十二師團獨立歩兵第二一大隊第三中隊
昭和十年徵集陸軍一等兵 幸松伸男

名 賜 結 核

一病 昭十九年九月二日

二發病月 沖繩縣中頭郡美里村大里

三發病場 因 別紙事實證明書記載ノ如シ

四原 過

五經 昭十九年六月二十四日應召渡支部隊移駐ノ為同年

八月二十日沖繩縣那覇卷ニ上陸以來玄米食ノタメ胃腸
 ノ害レ九月二日頃ヨリ一日數行ノ下痢ヲ來シ同月十二日
 受診シ採治ヲ施セルモ輕快セズ粘血便ヲ見ルニ至ルニ日

リ同年十月二十九日第六十二師團野戰病院小那覇患者
療養所ニ入院ス。當時體格中等度。榮養衰ハ憔悴
シ浮腫性顔貌ヲ呈シ可視粘膜炎尋常。平温平脈ニシテ整
實ス胸部ハ心界心音正常。肺野ニ著變ヲ認メズ腹部
ハ平坦柔軟肝脾ヲ觸知セズS字狀部ニ索狀物ヲ觸レ
壓痛アリ。下肢ニ浮腫アリ膝蓋腱反射消失シ水様便
一日數行アリ裏急後重全身ノ倦怠感腹痛ヲ訴フアル
シリシニ衰弱ニキス、アクリノール、ビタミンB劑ヲ投與シ糞便、
菌檢索ヲ行ヒ看護ニ努メタル處漸次、症狀輕快シ普
通便ヲ排スルニ至ル。且糞便中ニ腸管系傳染病原菌並
ニ赤痢アメーバヲ認メザルヲ以テ十一月七日臨床所見ヨリ
病名ヲ急性大腸炎ト決定ス。爾來療養ニ努メタル處便性
再ビ不良トナリ或ハ普通便秘トナリ一進一退漸次榮養衰ハ
貧血如ハリ十一月三十日血液沈降速度一時間四〇〇耗ヲ算
スルニ至リ十二月十二日皮膚ノ水分喪失著シク顔貌憔悴

悴シ蒼白色澤ニシテ貧血著明ニ肺野ニ僅カニ湿性
羅音出沒シ體カ尤衰著シキモアリ且水様便一日十
數行時ニ失禁シ微熱ヲ發スルニ至ル。同月十四日脈搏頻
數トナリ緊張弱ク細少第二肺動脈音亢進アリ四肢腕
カ著明ニシテ浮腫ヲ認ム。等張糖液ニ五〇cc皮下注射。惡心
劑ノ時間注射ヲ實施シ專心看護ニ努メタルモ症狀ハ増悪
シ輕快ノ徵ナク體温三七四度。脈搏九四至頻數ニシテ細
少ナリ依ッテ十六時三十分病狀増進(第一報)ヲ發シ臨床所
見ニ依リ病名ヲ腸結核ト改正ス。
翌十五日六時三十分脈搏益々頻數細少トナリ口唇「チアノー
ゼ」ヲ認メ心音微弱第一肺動脈音亢進尿失禁アリ
同日十八時三十分危篤ノ報(第二報)ヲ發シ「ロタカニル液」ニ〇cc
靜脈内注射頻回ニ皮下注射ヲ實施シ心カノ保持ニ努メタ
ルモ脈性漸次不良トナリ觸知セザルニ至ル。顔面四肢ニ引

心劑ニ反應セザルニ至リ呼吸停止シ次イデ心臟停止シ遂ニ七時五十分死亡ス

六死亡年月日 昭和十九年十二月十五日七時五十分

七死亡場所 中尾縣中頭郡西原村字小那霸第六十二師團野戰病院小那霸患者療養所

右之通ニ候也

昭和十九年十二月十五日

第六十二師團野戰病院小那霸患者療養所長 蓮江哲夫

死亡診斷書

一氏名 平松伸男

二男女別 男

三出生年月日 大正四年七月十九日

四職 業 第六十二師團獨歩兵第三大隊第三中隊隊員一等兵

五病死 戰病死

六痲 腸結核

七發病年月日 昭和十九年九月二日

八死亡年月日時 昭和十九年十二月十五日午前七時五十分

九死亡場所 中尾縣中頭郡西原村字小那霸第六十二師團野戰病院小那霸患者療養所

右證明候也

昭和十九年十二月十五日

第六十二師團野戰病院小那霸患者療養所

坪井文雄

請給與金證明書

本籍地

現住所



所屬部隊 獨立歩兵第二十二大隊第三中隊

官氏名 故陸軍一等兵 平松仲男

右者ニ對スル昭和十七年一月三十一日陸軍省告示第二號大東亞
戰役ニ係ル死歿者特別賜金賜與規定第三條第二項請給
與金ニ支給シテラサルトヲ證明ス

昭和十九年十一月十五日

獨立歩兵第二十二大隊長 西林鴻介

